



みかん+αがある方が自分らしい

合庭 嘉紘さん (36)
愛裕美さん (35)

研修生としての これまでとこれから

合庭嘉紘さん(以下、合庭)：ぼくは、令和2年(2020年)5月から有田川町の地域おこし協力隊として採用されたのがきっかけで有田川町へ来ています。今は研修生ですが、みんなと目指すところは一緒でおいしいみかんを作りたいです。町外から来た人が、もっと有田川町を盛り上げていきたいならいなくと。町外から来た自分たちだからこそ、PRしやすいこともあるのかなと思っています。研修を受けながら、自分たちだけでみかん畑を1年間管理してみました。失敗も成功もあるけどやりがいにつながっています。「みかん+α(何か)」があった方が自分らしいかなあ、と思っています。チャレンジ精神をなくさないようにと心掛けています。2年間の研修を通じて人とのつながりがだんだん増えてきて、道具を譲ってもらったりとありがたいご縁をいただいています。都会で

は道具を譲ってくれることなんてないと思うし、譲ってくれる人の思いをしっかりと受け継ぎたいなと。産地が残ってほしいと願う人たちの思いをつないでいきたいです。してもらっただけでなく、これからは自分からも何か返せるようになりたいですね。いろんな親方によくしてもらったので、自分もそんな人になりたいです。例えば、自分たちみたいな移住して新規就農を目指す人に、ごはんを食べさせてあげられるように。

独り立ちは今もうすぐ

合庭：地域おこし協力隊としての任期も今年が最後で、独り立ちの時期が近づいています。準備することが盛りだくさんですが、まずは屋号を決めました。自分たちも旅が好きだし、今の暮らしもまた、旅だなあと感じることから「またたび園」にしました。また旅ができるように、積極的に動いていきたいです。

自分らしく楽しむ

合庭愛裕美さん(以下、愛裕美)：先日、知り合いに野草会というイベントに呼んでもらって行ってきました。イベントを通じて知り合いが増えたらいいなと思っています。最近は、野菜を植えました。たまねぎ、にんにくがうまく育ったんですよ。今、畑の世話をめっちゃしてますね。マイペースに有田川町を楽しんで過ごしています。

合庭MEMO

趣味

ギターで弾き語り

ウワサ

仲良くなると、
お店レベルの自家製
ラーメンが食べられるとか…

【地域おこし協力隊とは】

都市部の若者などが過疎地域などに移住して、おおむね1年以上3年以下の期間、地場産品の開発、農林水産業への従事などの地域協力活動を行いながら、地域に定住・定着を図る取り組みとして、総務省により「地域おこし協力隊」制度が創設されています。